

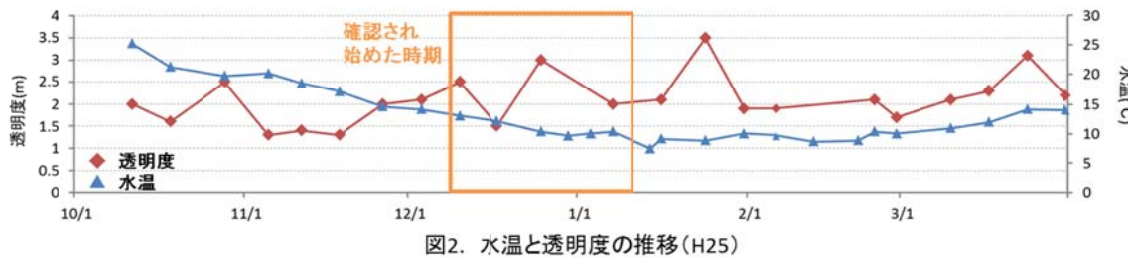
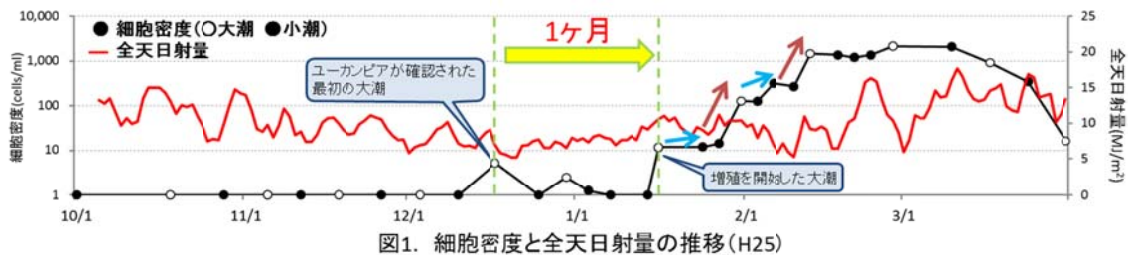
平成 26 年度水産研究成果情報

課題名：ノリの色落ち原因珪藻ユーカンピアの動態と環境特性

[背景・ねらい]

ユーカンピア(学名 *Eucampia zodiacus*)は大型の珪藻で冬季に赤潮を形成し、ノリの色落ちを引き起こす。有明海佐賀県海域では3～4年連続して発生する傾向があり、特に平成25年度では有明海全域で早期かつ長期的に赤潮が発生し、甚大な被害をもたらした。ユーカンピア赤潮による色落ち被害は深刻な問題であり、その発生機構の解明が現場から強く求められている。そこで、有明海における赤潮形成時の環境特性を把握することを目的とし、直近3年分(H23～25年度)の現場調査データを整理した。

[成果]



- 1) ユーカンピアの増殖動態と全日射量との間に関係性はみられなかった。(図1)
- 2) ユーカンピアが確認された最初の大潮からユーカンピアが増殖を開始した大潮までの期間は1ヶ月だった。さらに、細胞密度は小潮から大潮に向かうタイミングで大きく上昇することが確認された。(図1)
- 3) 水温が15°C以下に低下し透明度が1.5mよりも高くなる時期にユーカンピアが確認され始める傾向があった。(図2)
- 4) 2)、3)の結果は3年分で共通しており、その規則性から赤潮発生時期の予察への発展が期待された。

[課題・問題点]

赤潮発生機構の解明には3年分の解析ではデータが不足している。

[今後の対応]

過去の調査データも同様に解析し、同様の結果が得られるか確認する。

[その他]

研究機関：平成26年～

研究担当：ノリ研究担当 中村愛子

公表：H26年日本水産学会(秋) 口頭発表